

平成 22 年 6 月 1 日現在

研究種目：若手研究（B）  
研究期間：2008～2009  
課題番号：20730123  
研究課題名（和文） 移民ムスリム社会におけるイスラーム政治思想・運動の発展動態をめぐる資料収集  
研究課題名（英文） Material Survey on the Development of Islamic Political Thought and Movements in Immigrant Muslim Communities  
研究代表者  
氏名（Ikeuchi, Satoshi）  
東京大学・先端科学技術研究センター・准教授  
研究者番号 40390702

## 研究成果の概要（和文）：

本研究の主要な成果は、少数派イスラーム教徒の知識人が欧米社会において言論活動を行う雑誌・新聞・単行書といった書籍資料、電子媒体による映像資料を包括的に収集したことである。また、在米ムスリム団体とそれに関与する主要ムスリム知識人とのネットワーキングを進めたことが、口頭・非公式の資料収集のための重要な成果であった。それらの収集資料上に現れたイスラーム政治思想、特に自由主義を原則とする西欧諸社会に対する思想的な挑戦をめぐるのは、分析の成果を『イスラーム世界の論じ方』（平成 20 年 11 月）、『中東 危機の震源を読む』（平成 21 年 9 月）として刊行している。

## 研究成果の概要（英文）：

In this project, a comprehensive survey of resources and research materials on the development of Islamic political thought in Europe and North American in the contemporary era was conducted. Magazines, newspapers and pamphlets circulated in Muslim communities in Europe as well as the United States were extensively collected. Through networking with leading Muslim intellectuals and activists in Europe and the United States, materials of oral and informal nature are also collected. Results of preliminary analyses based on these resources were published in two books. Satoshi Ikeuchi, *Islam Sekai-no Ronjikata (Methods of Discussing Islam)* was published from Chuo Koron Shinsha in November 2008 and Satoshi Ikeuchi *Chuto: Kikino Shingenwo Yomu (Middle East: Analyses on the Epicenter of Crisis)*, was published from Shinchosha in September 2009.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：グローバル・イシュー、イスラーム主義、政教分離、移民政策

### 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、これまでに、イスラーム政治思想史の現代における展開が、中東諸国の政治社会の発展に及ぼす影響に特に着目してきた。イスラーム政治思想史の先行研究においては、研究対象は中東、特にアラブ諸国に、限定されていた。そのためイスラーム教徒が多数派として居住し、社会や政治がイスラーム教の価値規範に強く影響を受けている諸国、すなわちアラブ諸国やイスラーム諸国を、主な対象として取り上げられてきた。そのため、イスラーム教徒が移民や少数派として居住する地域についての研究は十分に行われてこなかったきらいがある。本研究プロジェクトはこの間隙を埋め、マイノリティとしての環境におけるイスラーム政治思想史の新たな展開を、現代の欧米やその他の地域において見出すことを主眼とした、基礎的な資料収集の作業を意図していた。

### 2. 研究の目的

本研究プロジェクトでは、イスラーム教徒が主に移民として居住し、社会の中で少数派として存在し、異なる規範・原則が支配的である地域を研究対象にした。そして、居住する国の多数派・支配的価値規範との関係において強いられる、イスラーム政治思想の問い直しと再編成の過程を調査の対象とする基礎資料の収集を目的とした。

本研究プロジェクトの二年間においては、主に現地調査によってなされる出版資料の包括的な収集や、同じく現地調査の過程で行われる口頭のインタビュー、参与観察等を駆使して、1990年代末から2000年代を通じての最新の思想潮流を、基礎資料の集積によって確定していく作業を行うことが、本研究プロジェクトの主要な目的である。

それによって、欧米を中心としたムスリム

のマイノリティ状況における思想展開が、中東諸国での思想展開といかなる形で相互の影響関係していくことかを調査し、現代のイスラーム政治思想のグローバル公共圏における発展を跡付けることが、本研究プロジェクトの遂行によって将来に可能になると目される長期的な目的である。

### 3. 研究の方法

本研究では、西欧および米国を主要な調査対象地とし、副次的にフィリピン等の東南アジアを比較考察の参照点として調査の対象とした。

現地調査に際しては、移民イスラーム研究の前提となる公刊資料の収集を行うと共に、欧米における主要なムスリム知識人との接触を進め、非公刊の資料や非公式の発言を記録するネットワーキングや参与観察を併用した。

本研究プロジェクトでは西欧諸国と米国における現地調査を行い、イスラーム教徒移民コミュニティの間で流通する定期刊行物や思想テキストを中心とした文献資料を収集した。それらの調査地においては、イスラーム教徒コミュニティの情報の集積と発信の拠点となっている、欧米諸国の各都市の中央モスクやイスラーム文化センターへの訪問調査を行い、パンフレットや説教DVDといった通常の本屋購入経路からは入手しにくい文献を収集した。本研究の予算は用いていないものの、フィリピンにおける調査によって、東南アジアにおいて少数派の地位に置かれたムスリムとの比較の作業を可能にする資料収集を進めている。

また、米国オバマ政権の対ムスリム政策の動向を一つの重点課題とし、それがいかなる形でムスリム住民の自己意識・他者認識に影響しているかを、文献資料の収集によって検討した。これに関しては同時に、オバマ政権による米国・西欧のムスリム住民への関与政

策の考案・策定・実施への、在欧米ムスリム知識人の影響力を示す諸資料を収集し、口頭による聞き取り調査を進めた。

収集資料は研究代表者が所属する東京大学先端科学技術研究センターのイスラム政治思想分野研究室の資料室において整理・保存され、研究の資料として整備していく。

#### 4. 研究成果

研究プロジェクト初年度の平成20年度は、西欧と米国におけるイスラーム教徒の思想動向を表す文献資料の収集において成果をあげた。

特に、英国、スペイン等の西欧イスラーム教徒コミュニティにおける宗教文化の中心となるモスク、宗教文化センター、ムスリム・コミュニティ・センターへの訪問調査を行い、流通するコミュニティ新聞や、頒布されるパンフレットを収集し、宗教政治言説の資料収集を進めた。また西欧のイスラーム説教師の宣教DVD等映像の収集を進めた。

また、欧米における少数派ムスリムの知的・政治的展開とは対照的な事例として、フィリピンのムスリム・マイノリティの宗教・政治的地位をめぐる現地調査を行い、口頭記録および刊行資料を収集した。

これらの収集された資料を用いた予備的な分析の成果は、研究代表者によって単著『イスラーム世界の論じ方』として刊行された。

研究プロジェクト二年目の平成21年度は、米国への渡航調査により、米国のムスリム思想家・政治活動家の思想動向を調査し、文献資料を収集した。特に、米国オバマ政権の対ムスリム政策を検討し、そこへの在米ムスリム知識人の影響を検討した。研究プロジェクト二年目の資料収集に基づく分析は、研究代表者によって単著『中東・危機の震源を読む』として刊行されると共に、論文「政治的イスラームのガバナンス」、論文「オバマ政権初年度の中東政策」（『国際問題』）等の論文として発表され、同時に、「洗練の度を深めるオバマの対イスラーム言説」（『フォーサイト』）等の現状分析レポートとしてまとめられ専門情報誌に掲載された。

これらの英語やアラビア語資料の分析成果を日本語によって発表するのと並行して、英語による発表を行って行った。このことは単に研究の成果・経過を海外に情報発信するという意味があるだけでなく、在欧米のムスリム知識人および対ムスリム政策担当者とのネットワークを構築していくという意味で重要だった。在欧米ムスリム知識人とのネットワーク形成によって、非公式・口頭の資料集積が可能になり、非公刊資料の入手が促進されることが期待される。このネットワ

ーキングにおいて一定程度成功したことが、本研究プロジェクトの重要な成果である。

在米ムスリム知識人とのネットワークの例としては、米国ワシントンDCのウッドロー・ウィルソン・センターにおいてコロキアムおよび招待講演（平成21年12月7日）を行い、欧米諸国の政治社会におけるイスラーム政治思想について発表したが、それによって出席した在ワシントンのムスリム団体との交流を図ることができた。

また、平成22年度にずれ込んだものの、ワシントンにおいて平成22年4月28日に開催された、「イスラーム民主主義研究協会（CSID）」の年次大会にて講演“Obama Administration and the Islamic Human Rights: The US Policy at the United Nations Human Rights Council in an intellectual historical context,”を行なった。CSIDは米国の主要なムスリム思想家・学者が集う団体であり、年次大会には、欧米在住の指導的なイスラーム政治思想論者であるターリク・ラマダーン等の、西欧・米国在住の代表的なムスリム知識人が集い、米国の対ムスリム少数派政策担当者と協議を行なった。これに参加・講演し、米国・西欧のムスリム少数派と、それに対する政策立案者等とのネットワークを深めることにある程度成功したことが、本研究の大きな成果といえる。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6 件）

池内恵「オバマ政権初年度の中東政策」『国際問題』No.589、2010年、3月号

池内恵「政治的イスラームのガバナンス」遠藤乾編『グローバル・ガバナンスの歴史と思想』有斐閣、2010年、273-310頁

池内恵、「オバマの中東外交」『フォーサイト』2010年1月号、20-21頁

池内恵「洗練の度を深めるオバマの対イスラーム言説」『フォーサイト』2009年7月号、22-23頁

池内恵「フィリピン政治で解決不能 ミンダナオ和平の「不遇」」『フォーサイト』2008年10月号、22-23頁

池内恵「北京五輪が露呈させた「帝国中国」の実態と困難」『フォーサイト』2008年9月号、18-19頁

池内恵「オバマ大統領誕生が道徳上の力となる可能性」2008年7月号、18-19頁

池内恵「穏健なアジア・イスラームの可能性と限界を知るべし」『フォーサイト』2008年5月号、20-21頁

〔学会発表〕（計 2 件）

Satoshi Ikeuchi “Obama and the Islamic World” Woodrow Wilson International Center for Scholars, 平成 21 年 12 月 7 日  
Satoshi Ikeuchi “Obama Administration and the Islamic Human Rights: The US Policy at the United Nations Human Rights Council in an intellectual historical context,” the 11th Annual Conference of the Center for the Study of Islam and Democracy (CSID), Ronald Reagan Building Amphitheater, Washington DC, 平成 22 年 4 月 28 日

〔図書〕（計 2 件）

池内恵『中東 危機の震源を読む』、2009 年 9 月、全 367 頁  
池内恵『イスラーム世界の論じ方』中央公論新社、2008 年 11 月、全 425 頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

池内恵 (Ikeuchi, Satoshi)

東京大学・先端科学技術研究センター・准教授

研究者番号：40390702

### (2) 研究分担者

### (3) 連携研究者